

JAEA「常陽」の審査に係る相談等について

令和4年4月13日
日本原子力研究開発機構

2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略、第6次エネルギー基本計画では、高速炉開発の戦略ロードマップに従って「2024年度以降の技術の絞り込み・重点化には、「常陽」での照射試験による検証が不可欠であり、運転再開に向けた準備を速やかに進めていく」と示されている。

また、「常陽」では、高速中性子を用いて、世界的にも希少な医療用放射性同位体を製造することが可能であり、医学会・がん患者関連団体からも、先進的ながん治療への貢献が期待され、国会においても取り上げられている。

新規規制基準で求められる安全対策を着実に実行し、「常陽」の運転再開を速やかに進め、高速中性子照射施設として、高速炉開発のみならず幅広い分野の研究開発、国民の福祉向上に貢献していく所存である。

○ 「常陽」の運転再開までの目標スケジュールについて

JAEAは、現在の審査に引き続き真摯に対応し、国の機関として運転再開に向けて計画的且つ適正な予算要求・執行に努め、国民の負託に応えるために、速やかに新規規制基準に適合できるよう工事を進めていく覚悟である。

「常陽」の早期運転再開は、JAEAにおける最重要事項であり、許認可、運転再開までのスケジュールは、2024年度内の運転再開をターゲットとして、機構内工程、技術資料の提示時期等を早めることとしたい。

○ 「常陽」審査体制について

「常陽」の新規制対応について、「常陽」の審査チーム設置等のご対応に深く感謝している。

今後、設工認審査についてもかなりの量を想定している。また、医療用放射性同位体の製造等に関する設置変更を、2023年度を目途に予定するなど、運転再開後の研究開発に係る許認可対応も必要となる。このため、設置許可後も現状に近い体制での審査をお願いしたい。

以上